

夕刊 磐城時報

日一廿
 印刷所 磐城時報社
 印刷部 加納活版所
 電話 二二二二
 代金 二二二二
 日刊 (日曜日) 翌日休刊

平稅務署から 帳簿を押収

高屋署長驚愕

(既報) 小名濱町に出張申出約千八百圓で公賣した事が先きから平署に引致留置取次次第に深味に入り日本銀行調べをうけてゐる平稅務署行が抵當権を有する土地の庶務課長關根清四氏(四四)競落に際し滞納金整理に於ては十九日も引續き菊地刑事の種々の不正が行はれたもの部長係りで嚴重取調べを進らし、その土地關係に容め同日午前十時菊地、草野疑の點がありと見られてゐる兩刑事は平稅務署に高屋署署長を右について高屋稅務署長を訪問關係公簿を押収し長は語る。

引上げ、事件の内容は警察署からその旨通知が一切極秘に附されてゐるが山田文一氏の子分金澤四郎と親交ある同課長は昨年中石城郡小名濱町酒造家某氏の滞納保證物であつた土地整理に當り山文から收賄、すにのみす。

けふから二十七日迄 犯罪防止週間

注意書を配布し週 間中には特別警戒

「防犯犯罪」のスコラガンの歳末には犯罪が頻出するを掲げて防犯週間は愈々々けのでお互に犯罪を防止し社ふ二十七日から来る二十七會をより能く美化して行か日まで行はれる事になつたといふのだその方法とし昭和十一年も早余す所十日で平署では各所に防犯の講足らすと、年の瀬の減演或は講話會を開きまた深く深いといつもの事なら言論機關を通じての宣傳印

電話事務競技 石黒嬢が優勝

平局電話事務競技會は十九日、二十日兩日行はれたが

平局電話事務競技會は十九日、二十日兩日行はれたが榮えある遊友支部長賞はアヲツキ等、一等賞は石黒共代さんが獲得各部個人入賞者左の如し
 △アヲツキ等一等賞石黒共代、二等賞坂妙子、三等賞大平八十八、△交換事務一等賞佐藤ツヤ、二等原田トシ、三等高木昌、△書類検査一等賞高木道子、二等原田トシ、三等田母神タミ、△申告處理事務一等賞波ヨシ、二等遠藤ハナ

自動車事故の二割 平地方に發生

平署で交通事故取締りのため十八日、十九日の中佐である

平局年賀郵便取扱ひは既報で一萬數千通を突破、同の如く昨二十日から開始し日受付数は更に増大すべくだが、當日の受付數八千七百本年は景氣好轉の結果未だ十二通で、昨年同日に比較増大年賀郵便の汎濫を見るし八百四十五通の増加で、平局では臨時雇ひ入れ更に本二十一日は二十四日で張り切つてゐる。(日曜日)の翌日とて正午ま

年賀郵便開始 初日取扱八千通

昨年より多い

平第四小學校の敷地買収費兩日管内自動車營業者並にの起債三萬三千圓は過般知運轉手、助手を同署會議室事から認可されたので井上に招集して事故防止の訓示助役は十九日東京、兼て約を行つたが、平署管内には東してあつた平町出身三井乗用者一三六、トラツク一榮一氏を訪問三萬三千圓を〇六、小型五八、特六、合三分三厘の低利で借り受計三〇五圓が毎日運轉され歸平した。

起債三萬三千圓 三井氏から借入

土木出張所長 鎌田橋視察 新任田淵内務省仙臺土木出張所長は昨二十日午後一時此の損害は二千九百圓の多來郡、小林平土木監督部長額に上つて損害賠償額は最の案内で小名濱築港から較低二十五圓から最高六百圓川堰を視察して同夜は湯本である、尙ほ事故の内譯は町山形屋に一泊二十一日は乗用十四回、トラツク二十三回であつた。

武藏鐵工場 火事騒ぎ

二十日午前二時頃平町字撻小路十九遠山稻吉氏方鐵工場から發火し同工場を半燒して同二時三十分鎮火した。

原因は殘火で損害約一萬圓である。

奉安殿延期

既報内郷村御殿第一尋常小學校奉安殿の上棟式は二十日舉行される筈の處都合上二十三日行はれる事に延期された。

川前村の 教員俸給

川前村で十一月の教員俸給一千八百八十二圓の未拂を生じ村當局では村稅教育費下渡金臨時町村再交付金を以てどうやら支辨する事に主の説諭方を願ひ出た。

雇主の説諭願

小名濱町定西三上イを方人福阿縣八幡市生れひさ長女渡邊とし子三〇〇は去月中郷里に歸る可く母親の旅費三十圓を取り寄せたが雇主が何としても同人をさぬので十九日ひさから雇主の説諭方を願ひ出た。

炭車に 轢かれて慘死

磐崎村上湯長屋九五第二城炭礦長倉第二坑運搬夫邊勉(一七)は二十日午前時ころ同村藤原地内で作中轉倒した際後方から轢して來たトロに轢かれた骨を骨折したので直ちに山病院に収容醫師の應急當を受けたが肺出血多量のため同日午後零時二十分歿した。

新年エハガキ・文字ハガキ
 カルタ・トランプ・アルハム類

決算期和洋帳簿傳票

當日用記本、日記

無慮二百二十種

マルモ柴田書店
 電話 24・124番 目丁四町平

